

1. 件名：「日本原燃株式会社におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋第1  
排風機B異常警報に伴う停止に関する面談」

2. 日時：令和元年10月2日（水）13：30～15：45

3. 場所：原子力規制庁 2階北会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 核燃料施設等監視部門

福吉主任監視指導官、松本主任監視指導官、湯浅主任監視指導官

日本原燃株式会社

東京支社 技術部 部長 他4名

5. 要旨

日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）と以下の内容について面談を実施した。

（1）日本原燃から、令和元年8月26日に発生した「ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の第1排風機B異常警報発報に伴う停止」の排風機故障の原因と対策（案）について、以下のとおり説明があった。

- ・2019年1～2月の定期点検時に排風機A及びBのVベルトを交換しているが、その際高耐久グレード「レッド」を使用すべきところ、スタンダードグレード「ブラック」を取り付けていた。このため、交換目安の約3,000時間より前にVベルトの強度が低下し、脱落したものと判断した。
- ・2019年6月に排風機AのVベルト2本が脱落したが、このときには振動値が比較的高かったため、振動によるベルトの劣化と判断し、要因分析の際にVベルトのグレード違いの確認を失念していた。
- ・グレード違いに関しては、注文システムの活用（グレード明記）、発注等の教育の実施、施工手順／作業管理チェックシートへのグレードの明記などの対策を行う。
- ・要因分析からグレード違いの意識が不足していた件に関しては、要因分析をする際の標準的な着眼点を整理したマニュアル等の整備、不具合発生時に現場確認を徹底することや当該設備の運転経験及び設計変遷の教育を実施する対策を行う。
- ・3週間程度を目途にまとめ、ホームページに載せる予定である。

（2）原子力規制庁から、排風機のVベルトの選定条件（点検時間の根拠など）、調達（仕様変更時の確認など）に関して不明確な点があることを伝えた。

(3) 日本原燃より、設計根拠等を確認し、整理の上、再度説明を行うとの回答があった。

## 6. その他

### 配付資料

- ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における排風機（A・B）の故障の原因と対策（案）
- 「ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における排風機（A・B）の故障事象に対する原子力規制庁からの問い合わせ事項について

### 参考

※1 令和元年8月27日の面談

「日本原燃株式会社におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋第1排風機B異常警報に伴う停止に関する面談」